

編集後記

全国で新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 感染拡大と変異株の増加もあり、緊急事態宣言が発令される地域も出てきておりますが、ワクチン接種も徐々に増加してきており五輪開催時までには、なんとか落ち着く事を願っております。

今月の「誌上ギャラリー」は山口淳正先生から、「ひとやすみ」と題した蓮池の竹に鮮やかな藍色のトンボが止まっている、写真が送られてきました。初夏を匂わせ清らかな心となり、思わず見とれてしまいました。ありがとうございました。

「挨拶」では、曽我欣治先生より心臓血管外科教授また、森山孝宏先生からも侵襲制御学教授就任のご挨拶をいただきました。鹿児島大学の更なる発展に導いてくださる事と思います。ご活躍を祈念しております。

「学術」は小濱浩介先生より「原発性マクログロブリン血症に対する分子標的療法」と題してご寄稿いただきました。分子標的薬の進歩は悪性腫瘍の治療概念を変革していますが、この度国内で開発され原発性マクログロブリン血症に保健適応された、新規 Bruton's Kinase 阻害薬 (ベレキシブル) の治療経過とそれに伴う免疫系への影響について、報告されております。

西尾善彦先生からは「わかりやすい！脂質異常の治し方 病態とその対策」をご寄稿いただきました。目の前の患者の背景を理解し、患者個人に沿った診察が重要とのこと。正にその通りだと、私も強く感じております。ご寄稿誠にありがとうございました。

「医師会病院だより」では下川原尚人先生から消化器内科の現状としてコロナ禍であっても、皆さんのご協力のおかげで、入院患者・外来患者数、内視鏡検査数は維持されているとのこと。これからも、紹介の程宜しく願いいたします。

「随筆・その他」の切手が語る医学のコーナーでは古庄弘典先生より「世界鍼灸学会連合会学術大会 (東京/つくば) 2016」切

手が紹介されています。いつも貴重な切手ありがとうございます。また随筆のコーナーでは小田原良治先生から、「孫との思い出」と題してお孫さんとの微笑ましいエピソードが、描かれています。粟 博志先生からも大作「歌と写真で綴る薩摩脇道その4-1」が、またりレー随筆では小園智樹先生から「『死』への責任」と題して研修医3カ月目の経験が、書かれております。今後のご活躍を陰ながら応援しております。ご投稿ありがとうございます。

「各区・支部だより」では、各支部の支部長のご挨拶をいただきました。退任された先生方は、このコロナ禍で大変なご苦労があったのではないかとと思われます。お疲れ様でした。また就任される先生方は、今後いろいろ制約が多いかと思いますが、1年間宜しく願いいたします。

「各種部会だより」は加治屋昌子先生より、内科医会3月例会の報告です。どうぞ一読ください。

「各種報告」では理事会の概要、第21回鹿児島市域糖尿病医療連携体制講習会、第1回支部長会等が報告されています。ご参照ください。

「会長のつぶやき」では、上ノ町 仁会長から40年余りにわたり鹿児島市医師会に勤務され、医師会に関する全ての建設と共同利用施設担当にご尽力され、まさに「ミスター医師会」の東参与がこの度退職されたとのこと報告でした。東参与長い間本当にありがとうございました、心より感謝申し上げます。

皆さんもご存じかとは思いますがプロゴルファーの松山英樹選手が、念願のマスターズでアジア人初の優勝という快挙を達成されました。おめでとうございます。これから五輪開催された際には、金メダルという1番いい結果になる事を期待したいと思えます。

(編集委員 角 純啓)